

あ と が き

少子高齢化、グローバル化など激しい社会の変化が、今、私たちの周りの状況として叫ばれています。そうした中で必要とされる人材の育成が求められ、教育も広い視野の下、未来を見据えた新たな教育を常に求めなくてはならない状況にあります。未曾有の被害をもたらした3.11東日本大震災では、今までの生活そのものを見直さねばならない事態も起きました。しかし、ここにこれまでの日本の教育の底力を見ることもできました。それは、辛く厳しく極めて困難な状況の中で、子供たちは自ら力の限りを尽くし、被災地の復興に貢献してきたことです。今こそ、先人が築き上げてきた日本の教育の良さを再確認し、「不易」と「流行」の視点に立ち理解することが、未来の教育を切り拓いていくことにつながっていくのではないのでしょうか。

「東山梨教育研究」も昭和38年に第1号を発行して以来、発刊52年となりました。理論と実践に裏付けられた歴史のある東山梨教育研究です。本年度の実践からも子供を中心に据えた日々の教育活動と各校の先生方の毎日の指導の蓄積によって、確実に教育の目指す方向に子供たちが育まれていることが実感できます。それぞれの子供の現状・背景を見据えつつ、効果的な指導、学級経営の改善に向けて更に検討を進め、実践した成果をここに「東山梨教育研究 第52号」としてまとめることができました。

さて、折しも国では「第2期教育振興基本計画」が本年の6月14日に閣議決定されました。基本計画では、「自立、協働、創造」の3つの基本理念の社会の方向性に向かって、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の育成」「学びのセーフティネットの構築」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の4つの基本方針が打ち出されました。

山梨県においても平成26年度から30年度までの5年間を計画期間とする本県教育振興の基本計画である『新やまなしの教育振興プラン』が平成26年2月に策定されました。今後、具体的な取組が求められてきます。東山梨教育も今まで同様、確実な歩みをしていきたいと思えます。

生涯にわたって学ぶことが求められている今、学校教育はそのための重要な基盤であります。これからの社会に夢をもち続け、力強く生き抜く子どもたちのためにも、教職員一人一人の資質向上はもとより、東山梨全教職員が一丸となり創意工夫を重ねて教育活動の充実を目指していきたいと思えます。

終わりにになりましたが、「東山梨教育研究 第52号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました甲州市教育委員長様、並びに東山梨教育協議会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、山梨市、甲州市両教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。なお、本冊子の表紙は教育協議会「図工・美術部会」の小澤朋子先生（塩山中学校3年 内田園香さん作）にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

【編集委員】

山梨市教育委員会教育長	丸山 森人
甲州市教育委員会教育長	保坂 一仁
峡東教育事務所副所長	佐藤 政幹
峡東教育事務所指導主事	宮澤 洋一
東山梨教育協議会事務局次長	梶原 貴
東山梨教育協議会研究推進委員長	小串 吾郎
山梨支会研究推進委員長	岩下 城
山梨支会研究推進副委員長	日野原和貴
甲州支会研究推進委員長	平井 成二
甲州支会研究推進副委員長	小宮山公仁

発行日	平成26年4月1日
発行責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会
編集責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会事務局
印刷所	昭和堂印刷